

調査4種横断比較（詳細版）



A 個人 (障がい者)	① ②	④	⑤	⑥	⑦
B 福祉施設	① ② ③	④	⑤	⑥	⑦
C 実演団体	②	④			⑦
D 劇場・ 文化施設	① ③		⑤	⑥	⑦

## サマリ（1/2）

### ①障がい種別鑑賞状況

個人、福祉施設ともに障がい種別は、知的障がいを筆頭に多岐にわたるが、劇場・文化施設側が把握している限りでは鑑賞者に占める割合では主に車いすを利用する身体障がい者が多く見られる。

どのような障がい者が利用しているかの正確な把握や、身体障がい者以外へのより一層のケアも検討の余地がある。

### ②表現活動のジャンル

個人、福祉施設ともに表現活動のジャンルでは音楽がダントツ1位であり、ダンス、演劇が続き、実演団体の活動ジャンルでもダンス、演劇の割合が高かった。いずれの活動母体でも、ダンスや演劇のような取り組みやすい活動をいかに浸透させていくかが重要なポイントと思われる。

### ③鑑賞機会への意識

劇場・文化施設等で舞台芸術を鑑賞したことのある福祉施設が43.4%であるのに対し、公演情報を届ける工夫をしている劇場・文化施設は21.7%であった。障がい者や福祉施設への情報提供を意識した取り組みに改善の余地もありそうである。

### ④情報の受発信

情報の発信側と受信側ともにDM（ダイレクトメール）やチラシ・ポスター、知人からの紹介（口コミ）などのアナログな手段が高い割合であった。

実演団体が比較的活用されているウェブマガジンやSNSが、受信側ではさほど利用されていないようなので、いかに活用を促すかが今後の課題と思われる。

### ⑤文化施設の対応：個人（受付、上演前サポート、上演中サポート）

舞台芸術の鑑賞にあたって、障がい者からの申し込み手段は多岐にわたっている一方で、障がい者を想定した申込み体制が整っている劇場・文化施設は55.2%に過ぎなかった。申込みに係る受付体制のバリアフリーも検討の余地がありそうである。

劇場・文化施設に求める上演前のサポートについては、舞台事前説明会や会場案内、パンフレットなどへのニーズがある一方で上演前のサポートを行っている劇場・文化施設は11%程度であった。今後はサポート事例を情報共有するなど他の劇場・文化施設への波及が一層求められる。

また、求めるサポートについて「特にない」という回答が最も多かったが、劇場・文化施設が担えるサポート自体への認知不足も一因なのではなかろうか。

劇場・文化施設に求める上演中のサポートについては、「特にない」という回答も多数ある中で特に福祉施設側のニーズとして、手話通訳や字幕表示、副音声ガイドなどは20%を超えるニーズがある。

その一方で劇場・文化施設側のサポートの中で、特に手話通訳や副音声ガイドについては実施率が5%前後に留まるなど、ニーズとの乖離がみられた。

## サマリ（2/2）

**⑥ニーズの把握状況**

先述の通り（⑤）、鑑賞経験者には、受付や上演前/上演中サポートなどで多岐にわたるニーズが存在していることが判明しているが、鑑賞未経験者においても、鑑賞サポートをはじめ、送迎や、事前の公演情報、申込みの簡便性などのニーズが存在する。一方で、劇場・文化施設側では、ニーズ把握や鑑賞サポートを実施しているのは15%にとどまっているため、まずは障がい者のニーズ把握が求められる。

**⑦成果：本人が得たもの（表現活動）**

表現活動を通して得たものとして、障がい者本人、福祉施設、実演団体のいずれもがトップは「達成感・充実感を味わえた」であり、「自分により自信が持てるようになった」が次いで上位に挙げられた。

一方、個人に特徴的なのは「仲間ができた」、福祉施設に特徴的なのは「地域のさまざまな人とのつながり」、実演団体に特徴的なのは「表現者としての可能性」など、活動の目的を意識した成果が挙げられた。

**⑦成果：本人が得たもの（鑑賞）**

鑑賞を通して得たものとして、障がい者本人、福祉施設ともに順位はほぼ同じであった。特に上位3位の「感性が育まれた」「感動や感覚」「精神的な安定」は多くの回答を得ており、障がい者本人にとっては鑑賞は抵抗感を抱かずに情操を養える貴重な機会と見受けられる。

**⑦成果：社会へのインパクト（表現活動）**

表現活動を通して社会へ及ぼしたインパクトとして、障がい者本人、福祉施設、実演団体のいずれもが「障がい者の家族など周囲の人々が、新たな可能性を見出すことができた」を2位以内に挙げている。また「障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた」「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」なども共通して上位に挙げられている。

一方、福祉施設に特徴的なのは「自治会やNPO等、地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった」、実演団体に特徴的なのは「既存の舞台芸術にはない、新しい表現方法を探ることができた」など、周囲の家族のみならず地域や芸術自体へのインパクトを与えていることがわかる。

**⑦成果：社会へのインパクト（鑑賞）**

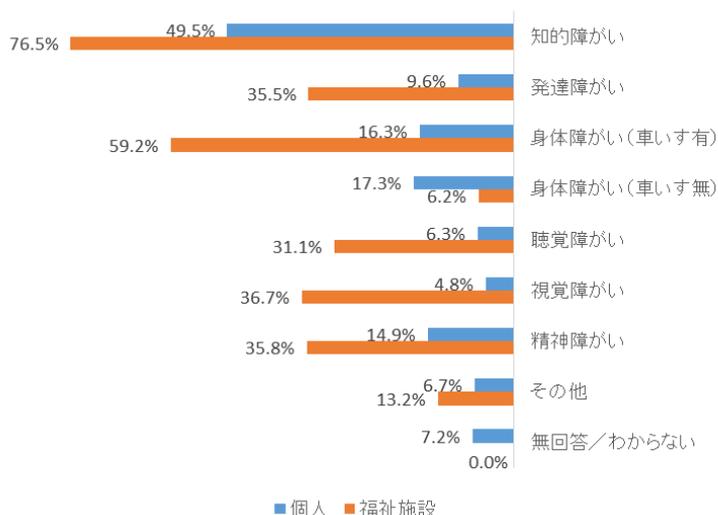
鑑賞を通して社会へ及ぼしたインパクトとして、障がい者本人、福祉施設、劇場・文化施設のいずれもが「障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた」「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」を上位に挙げている。一方、劇場・文化施設は「特にない」が31.3%もあり福祉施設側の回答と2倍の乖離があった。さらには「地域社会が障がい者に対してより友好的になった」なども約4倍の乖離があり、地域社会への意識の差の現れかもしれない。

①障がい種別鑑賞状況

個人、福祉施設ともに障がい種別は、知的障がいを筆頭に多岐にわたるが、文化施設側が把握している限りでは鑑賞者に占める割合では主に車いすを利用する身体障がい者が多く見られる。

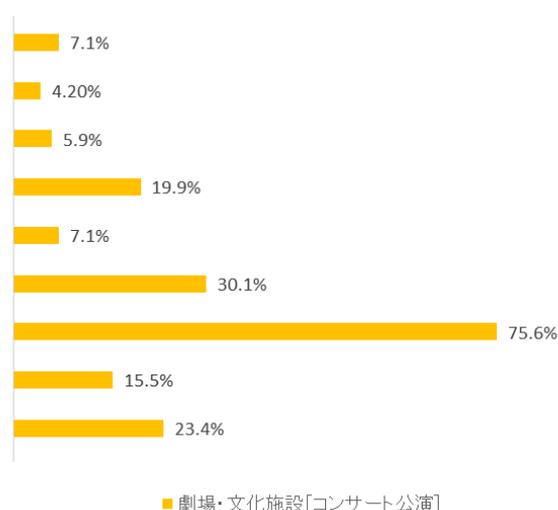
どのような障がい者が利用しているかの正確な把握や、身体障がい者以外へのより一層のケアも検討の余地がある。

鑑賞者の障がい種別（個人／福祉施設）



有効回答数：個人 208 件、福祉施設 341 件

鑑賞者の障がい種別  
劇場・文化施設[コンサート公演]

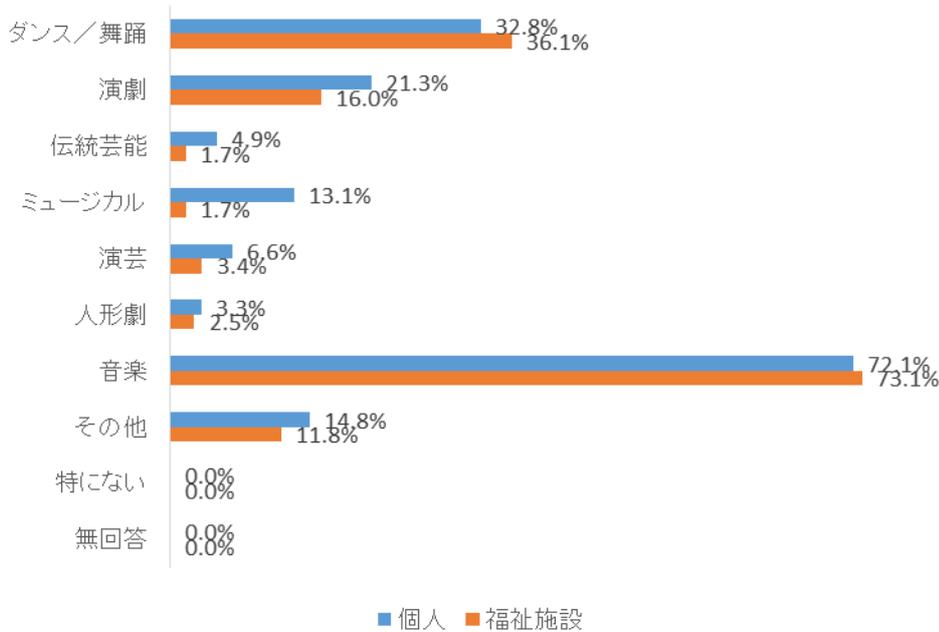


有効回答数：劇場・文化施設 594 件

## ②表現活動のジャンル

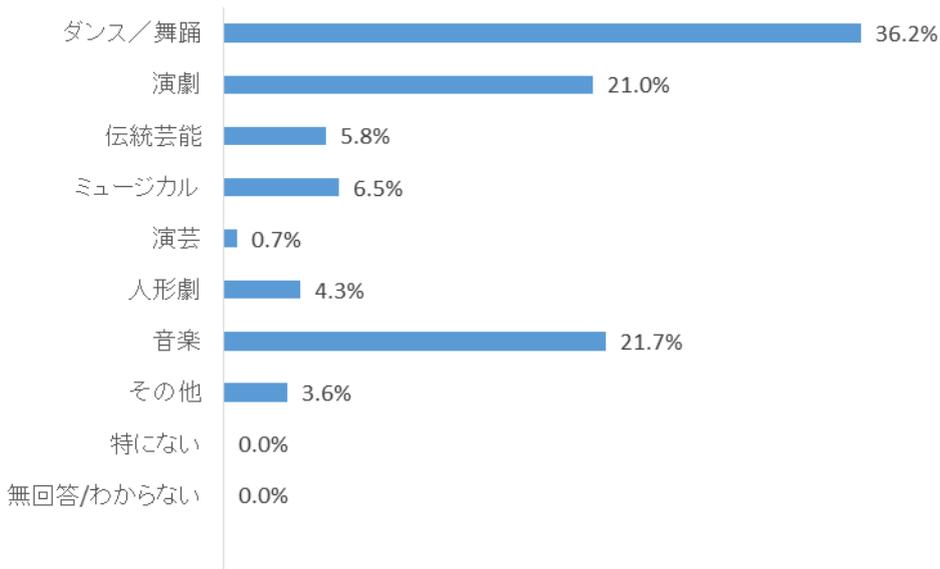
個人、福祉施設ともに障がい種別は、表現活動のジャンルでは音楽がダントツ 1 位であり、ダンス、演劇が続き、実演団体の活動ジャンルでもダンス、演劇の割合が高かった。いずれの活動母体でも、ダンスや演劇のような取り組みやすい活動をいかに浸透させていくかが重要なポイントと思われる。

表現活動のジャンル（個人、福祉施設）



有効回答数：個人 61 件、福祉施設 119 件

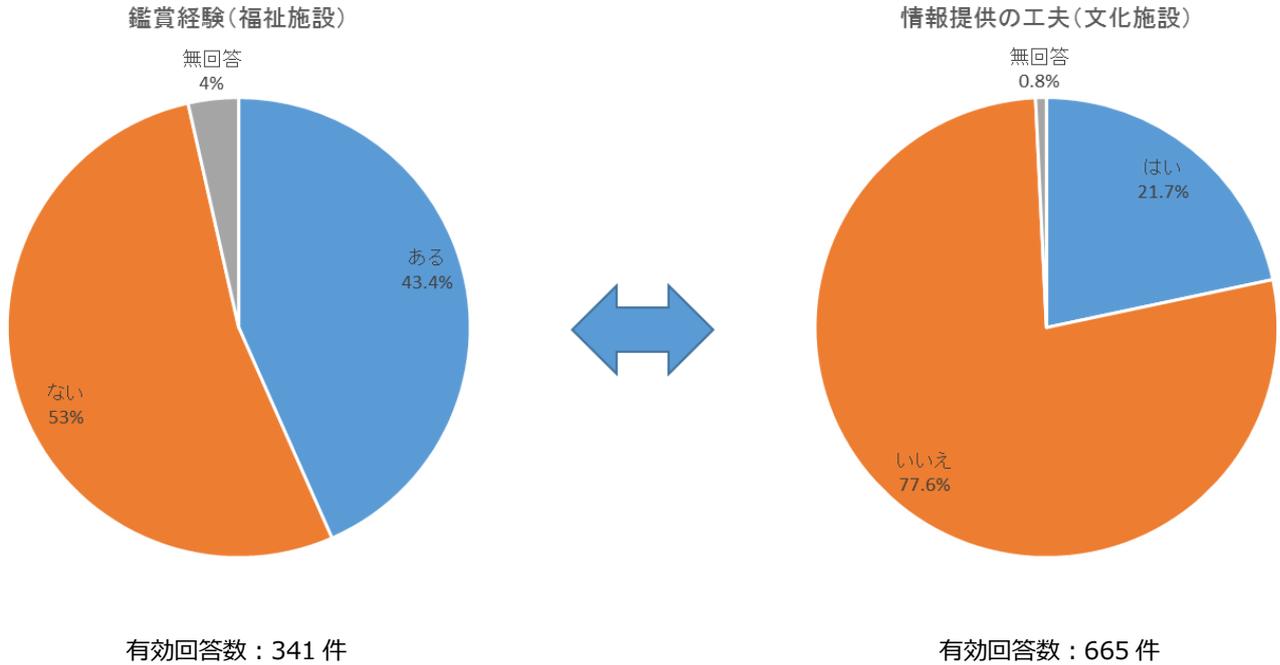
表現活動のジャンル（実演団体）



有効回答数：44 件

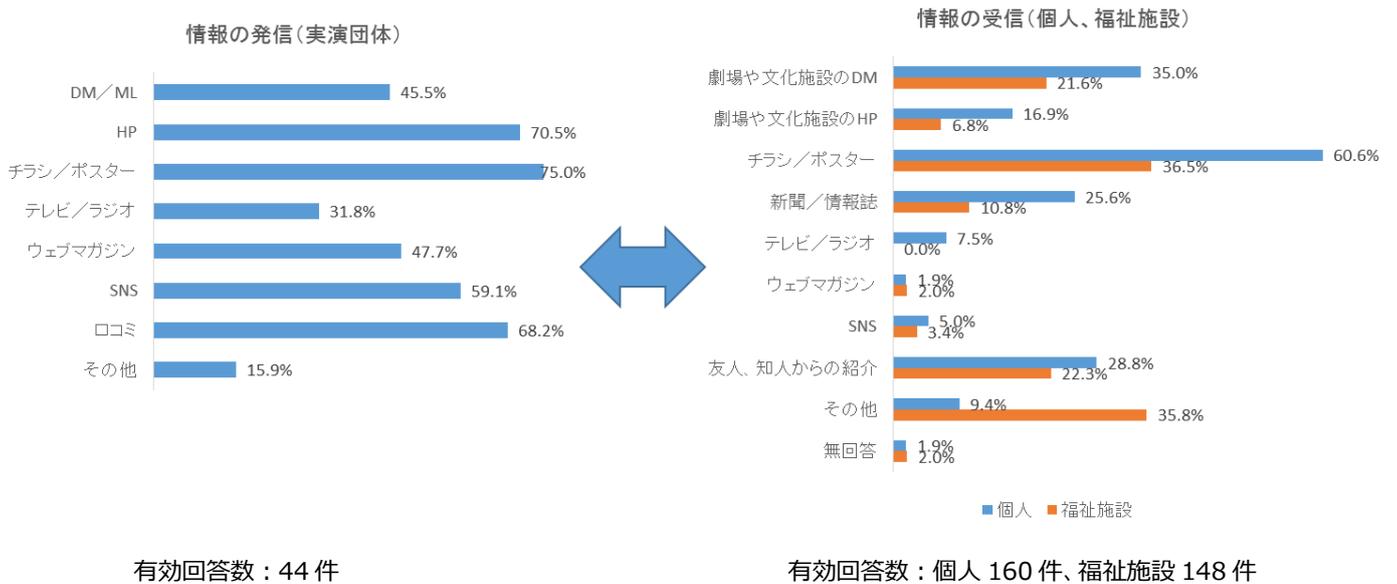
③鑑賞機会への意識

文化施設等で舞台芸術を鑑賞したことがある福祉施設が43.4%であるのに対し、公演情報を届ける工夫をしている文化施設は21.7%であった。障がい者や福祉施設への情報提供を意識した取り組みに改善の余地もありそうである。



④情報の受発信

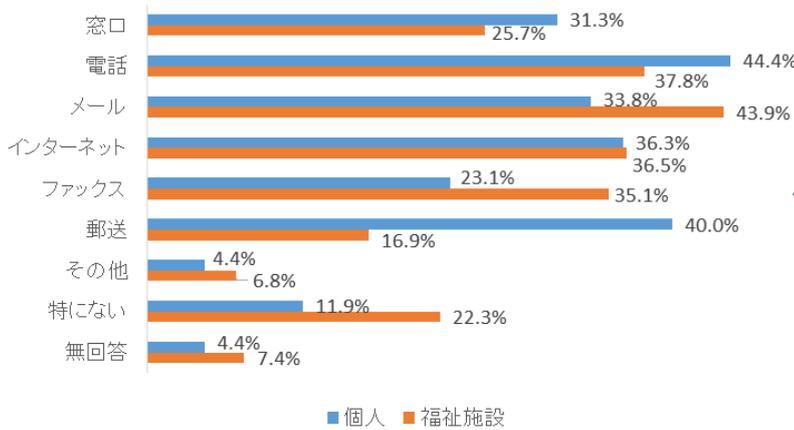
情報の発信側と受信側ともにDMやチラシ・ポスター、知人からの紹介（口コミ）などのアナログな手段が高い割合であった。実演団体で比較的活用されているウェブマガジンやSNSが、受信側ではさほど利用されていないようなので、いかに活用を促すかが今後の課題と思われる。



⑤文化施設の対応：個人（受付、上演前サポート、上演中サポート）

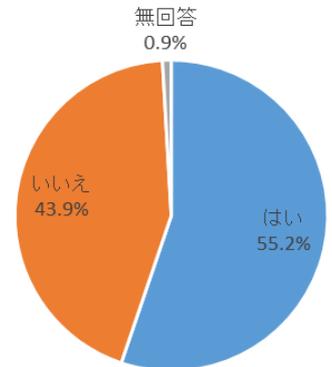
舞台芸術の鑑賞にあたって、障がい者からの申し込み手段は多岐にわたっている一方で、障がい者を想定した申し込み体制が整っている文化施設は55.2%に過ぎなかった。申込みに係る受付体制のバリアフリーも検討の余地がありそうである。

文化施設や文化施設に求める申込方法（個人、福祉施設）



有効回答数：個人 160 件、福祉施設 148 件

障がい者からの申し込みを想定した受付体制（劇場・文化施設）



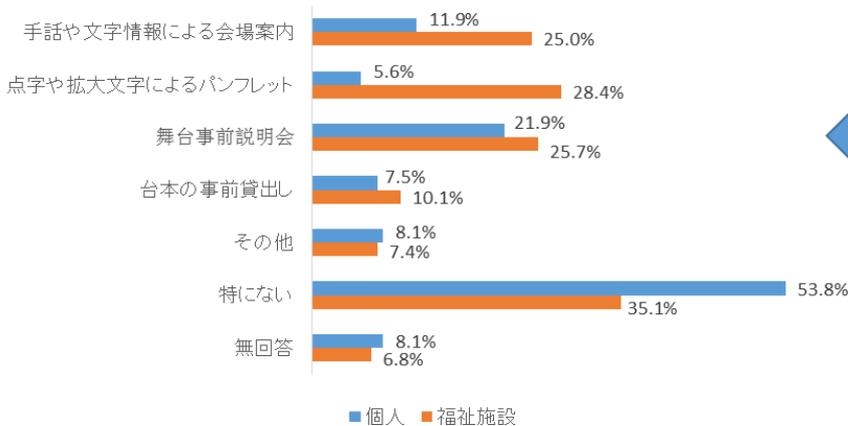
有効回答数：665 件

⑤文化施設の対応：上演前サポート

文化施設に求める上演前のサポートについては、舞台事前説明会や会場案内、パンフレットなどへのニーズがある一方で上演前のサポートを行っている文化施設は11%程度であった。今後はサポート事例を情報共有するなど他文化施設への波及が一層求められる。

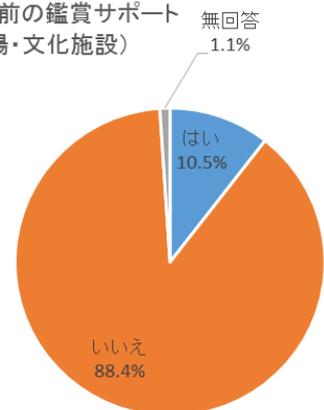
また、求めるサポートについて「特にない」という回答が最も多かったが、文化施設が担えるサポート自体への認知不足も一因なのではなかろうか。

文化施設や文化施設に求める上演前の鑑賞サポート（個人、福祉施設）



有効回答数：個人 160 件、福祉施設 148 件

上演前の鑑賞サポート（劇場・文化施設）

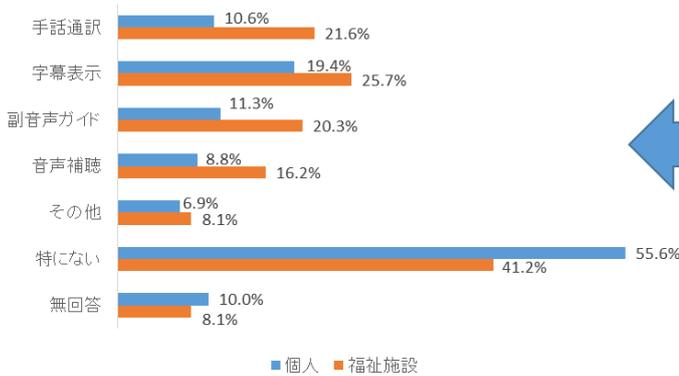


有効回答数：665 件

⑤文化施設の対応：上演中サポート

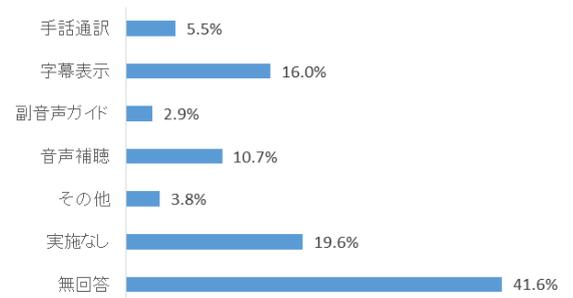
文化施設に求める上演中のサポートについては、「特にない」という回答も多数ある中で特に福祉施設側のニーズとして、手話通訳や字幕表示、副音声ガイドなどは20%を超えるニーズがある。その一方で劇場・文化施設側のサポートの中で、特に手話通訳や副音声ガイドについては実施率が5%前後に留まるなど、ニーズとの乖離がみられた。

文化施設や文化施設に求める上演中の鑑賞サポート  
(個人、福祉施設)



有効回答数：個人 160 件、福祉施設 148 件

上演中に実施している鑑賞サポート  
(劇場・文化施設)

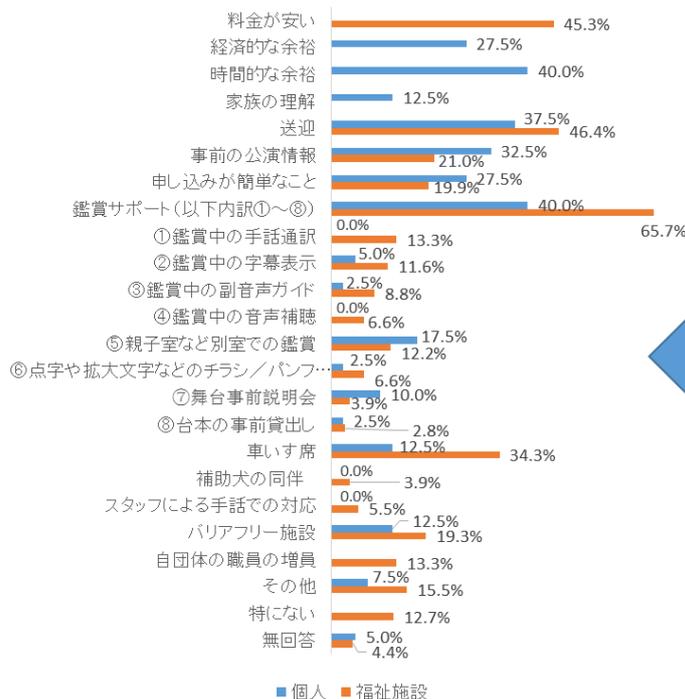


有効回答数：101 件

⑥ニーズの把握状況

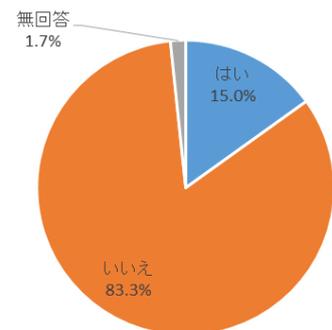
先述の通り（⑤）、鑑賞経験者には、受付や上演前/上演中サポートなどで多岐にわたるニーズが存在していることが判明しているが、鑑賞未経験者においても、鑑賞サポートをはじめ、送迎や、事前の公演情報、申込みの簡便性などのニーズが存在する。一方で、文化施設側では、ニーズ把握や鑑賞サポートを実施しているのは15%程度にとどまっているため、まずは障がい者のニーズ把握が求められる。

鑑賞未経験者が求めるニーズ(個人、福祉施設)



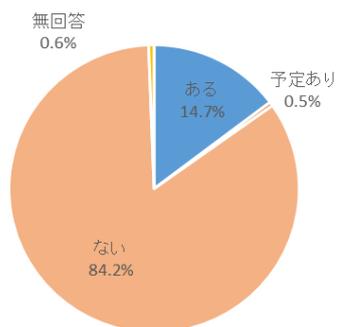
有効回答数：個人 40 件、福祉施設 181 件

ニーズ把握(劇場・文化施設)



有効回答数：665 件

鑑賞サポートの実施(劇場・文化施設)

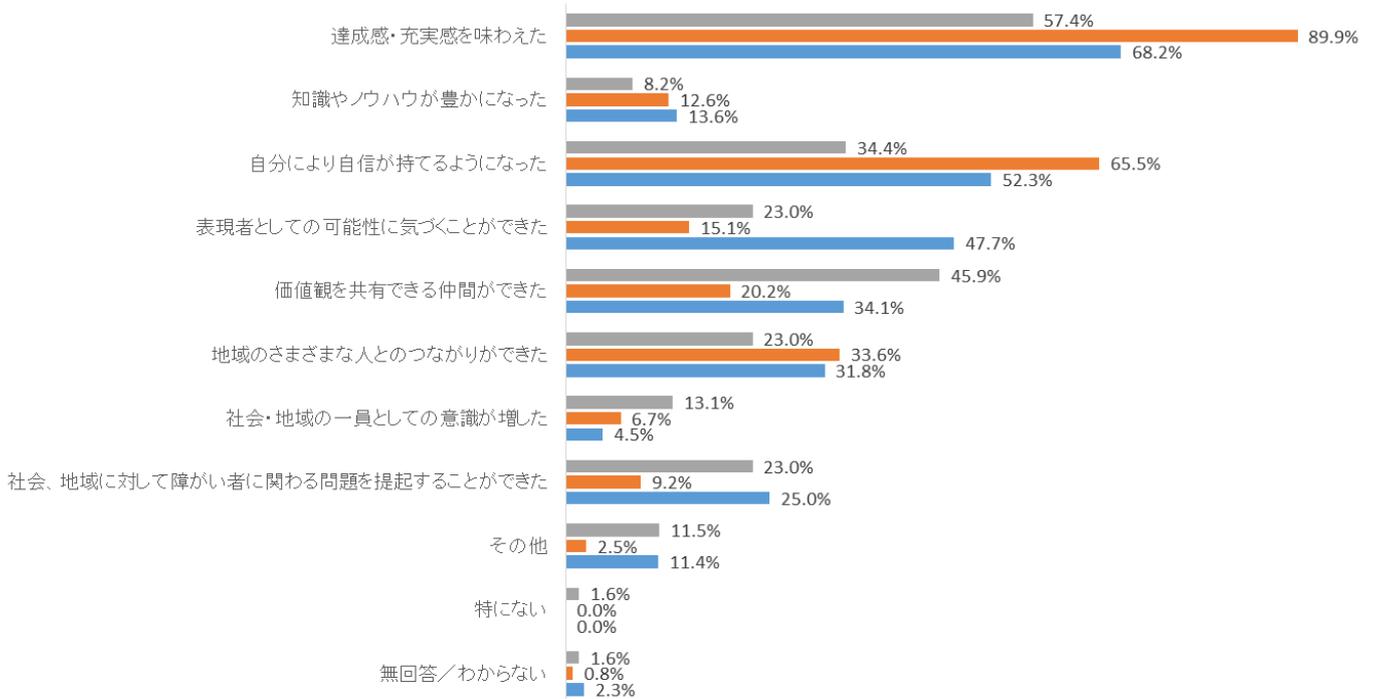


有効回答数：665 件

⑦本人が得たもの（表現活動）

表現活動を通して得たものとして、障がい者本人、福祉施設、実演団体のいずれもがトップは「達成感・充実感を味わえた」であり、「自分により自信が持てるようになった」が次いで上位に挙げられた。

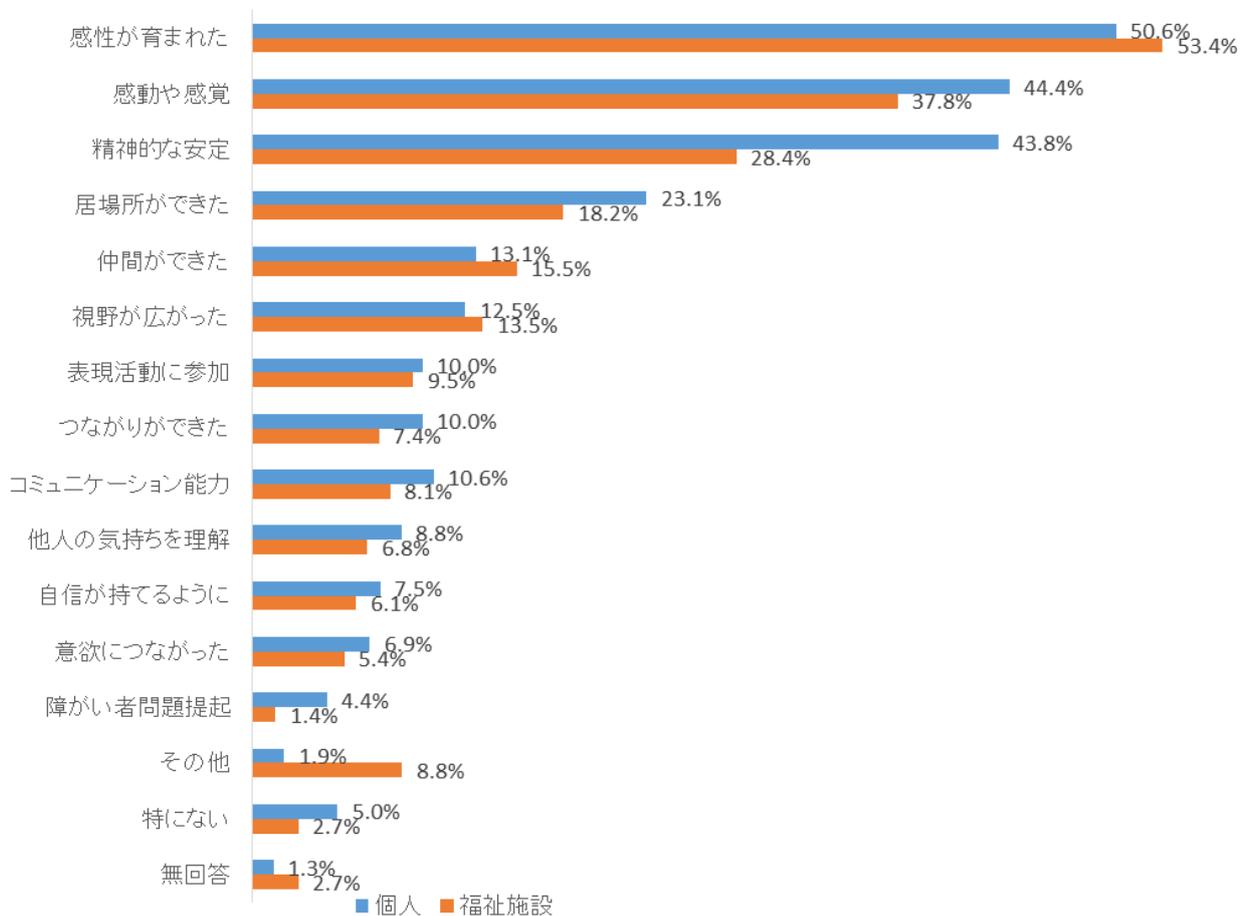
一方、個人に特徴的なのは「仲間ができた」、福祉施設に特徴的なのは「地域のさまざまな人とのつながり」、実演団体に特徴的なのは「表現者としての可能性」など、活動の目的を意識した成果が挙げられた。



有効回答数：個人 61 件、福祉施設 119 件、実演団体 44 件

⑦成果：本人が得たもの（鑑賞）

鑑賞を通して得たものとして、障がい者本人、福祉施設ともに順位はほぼ同じであった。特に上位3位の「感性が育まれた」「感動や感覚」「精神的な安定」は多くの回答を得ており、障がい者本人にとっては鑑賞は抵抗感を抱かずに情操を養える貴重な機会と見受けられる。

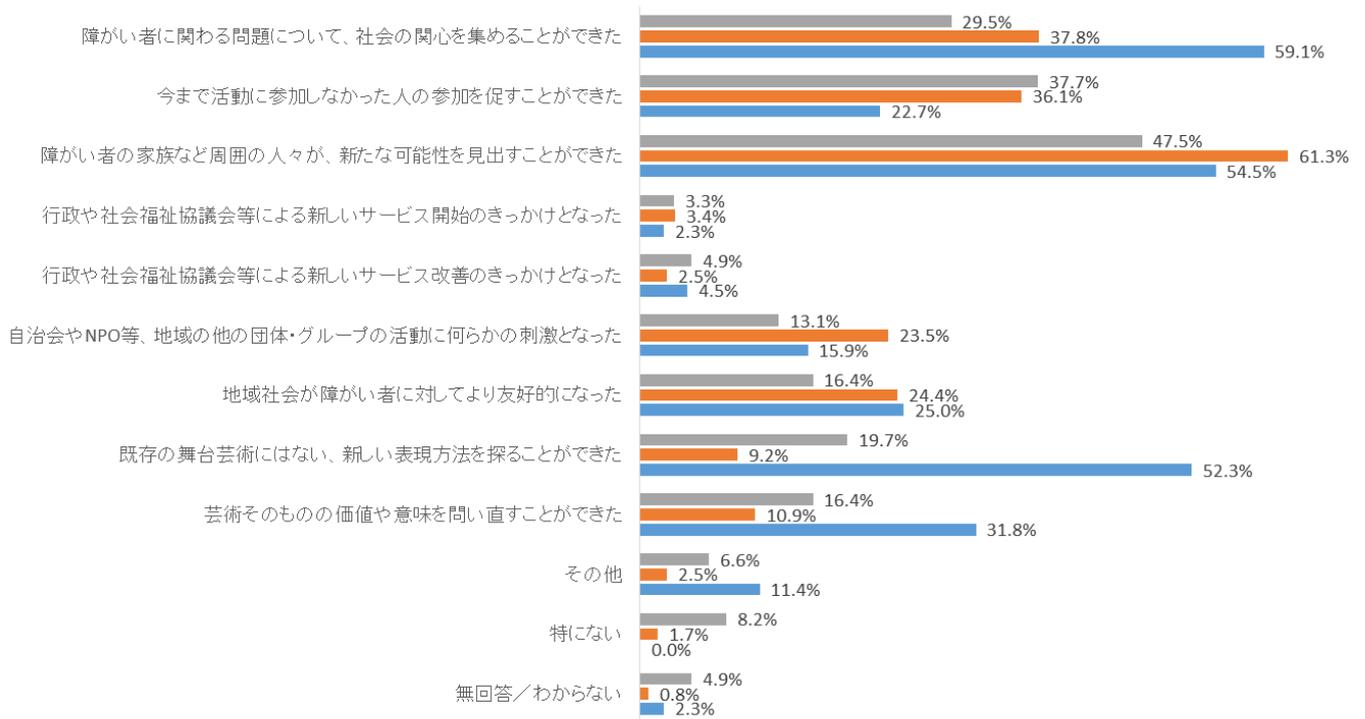


有効回答数：個人 160 件、福祉施設 148 件

⑦成果：社会へのインパクト（表現活動）

表現活動を通して社会へ及ぼしたインパクトとして、障がい者本人、福祉施設、実演団体のいずれもが「障がい者の家族など周囲の人々が、新たな可能性を見出すことができた」を2位以内に挙げている。また「障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた」「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」なども共通して上位に挙げられている。

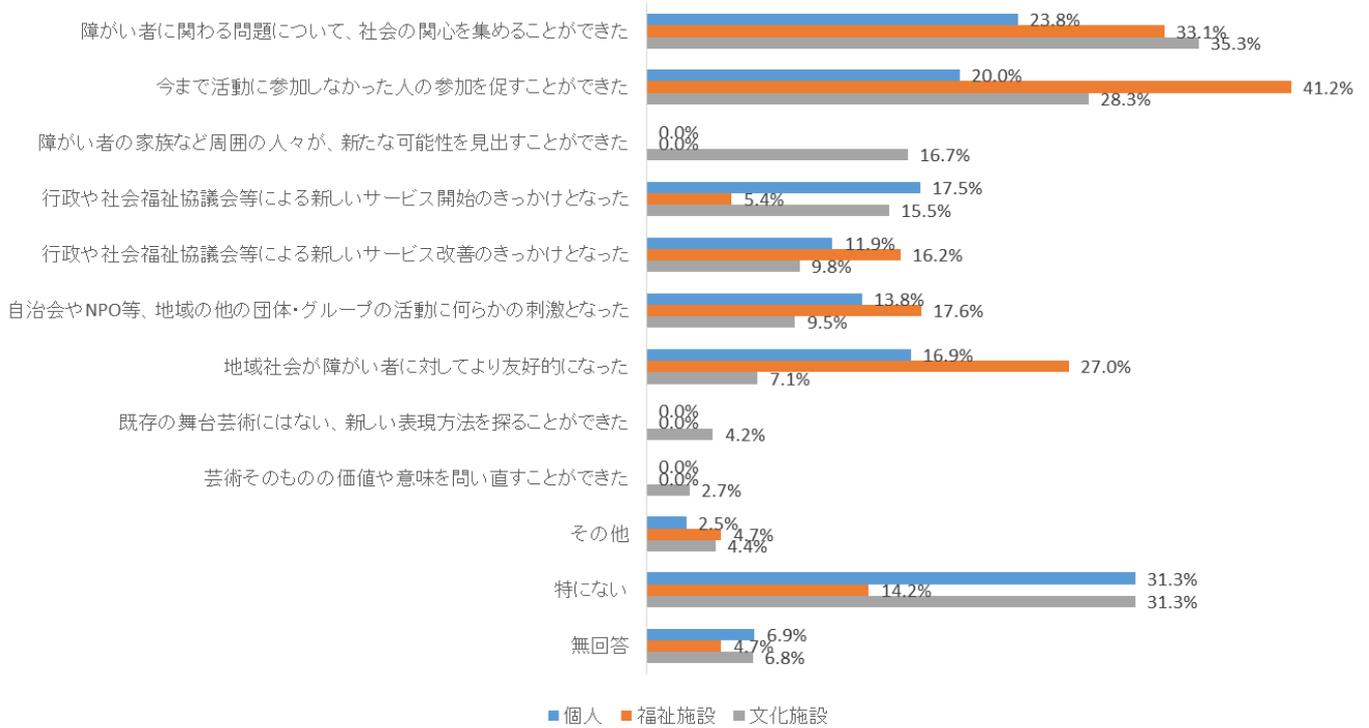
一方、福祉施設に特徴的なのは「自治会やNPO等、地域の他の団体・グループの活動に何らかの刺激となった」、実演団体に特徴的なのは「既存の舞台芸術にはない、新しい表現方法を探ることができた」など、周囲の家族のみならず地域や芸術自体へのインパクトを与えていることがわかる。



有効回答数：個人 61 件、福祉施設 119 件、実演団体 44 件

⑦成果：社会へのインパクト（鑑賞）

鑑賞を通して社会へ及ぼしたインパクトとして、障がい者本人、福祉施設、文化施設のいずれもが「障がい者に関わる問題について、社会の関心を集めることができた」「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」を上位に挙げている。一方、劇場・文化施設は「特にない」が31.3%もあり福祉施設側の回答と2倍の乖離があった。さらには「地域社会が障がい者に対してより友好的になった」なども劇場・文化施設と福祉施設との間で約4倍の乖離があり、地域社会への認識の差も見受けられた。



有効回答数：個人 160 件、福祉施設 148 件、劇場・文化施設 665 件